

# 譚 醫

復刊第55号

昭和62年5月

静岡県医学懇話会発行

『新刊誌』にらも学について……………誌 本 費 一(1)

静岡県医師会入会希望……………費 寄 金(1)

静岡県立大学の学歴と卒業……………寄 附 金(1)

西洋医学教育システム実務の歴史……………寄 附 誌(1)

のふも、ボケナス……………誌(1)

〒420-0101 静岡市東区藤原1-1-1 静岡県医師会

日本郵政省承認済郵便物(第1500-41号)……………誌(1)

日本医史学会関西支部発行

「医譚」表紙（復刊第55号昭和  
62年5月）

## 研究会

### 静岡県医史学懇話会

本会は昭和五十四年五月県医師会の一 fractions として発足し、同年五月第一回総会で会則等を定め、会長に中川長一氏を推挙した。

現会長土屋重朗、副会長舟木茂夫、会員は四十五名。運営は委員会費と県医師会助成金（年九万円）で賄っている。

事務所（連絡場所）は静岡県医師会事務局（静岡市鷹匠三丁目六一三・電話〇五四二一六四一六一一）分科会係内にある。

本会は県医師会の分科会であるので県医会員なら誰でも入会できるが、医師会員でなくても県医史に興味を持ち、年会費を納めた者なら誰でも会員になれる。会費は年会費二千元、入会金不要、入会希望者は年会費を添えて住所・氏名・生年月日・職業（具体的に）を書き医史学懇話会入会希望と記入して前記事務所へ現金書留郵便または郵便振替（名古屋六一八五四一三、静岡県医史学懇話会）で申し込まれた。

機関誌は「会誌」を昭和六十年十二月に創刊号を、以後毎年十二月に一回宛発行している。これには総会記事・論文・探訪会報告・その他会の動き等を掲載している。今の処経費の関係でささやかな小冊子である。

総会は毎年六月に研究発表会を兼ねて開催、十月には毎年県内

洋治気付 日本医史学会関西支部

（入会方法）会費 一年三千元。振替番号大阪一―二七六四五

日本医史学会関西支部事務局

（機関誌）『医譚』（当分年一冊の予定、現在復刊五十五号まで刊行）

（機関紙）『関西支部たより』（不定期、年二〜三回、現在八号まで刊行）

（大会）春秋二回を原則とする。主として一般演題の発表。昭和六十三年は七月九日（土）・十日（日）、津山市にて。十一月十二日（土）・十三日（日）、大阪市にて（医学史研究会と共催）。例会・見学会などは最近は実施していない。

（長門谷洋治）

市町村等の地域の医史探訪会を行なっている。いずれは会員共同研究会、他団体との共同講演会・顕彰会等も行ないたいと考えている。

参考までに研究発表会および会誌に発表した主な論文を紹介しよう。

戸塚静海とその一族の史跡（舟木茂夫）・明治二十五年掛川で行われた帝王切開術（中川長一）・柏原学而の牛病新書について（土屋重朗）・日坂宿にシーボルトを訪ねた医師について（舟木）・県立掛川病院創業事情（中川）・女理講の成立背景について（舟木）・掛川藩の医事医療施設（須貝文書から）（岩崎鉄志）・種痘をめぐる地域史料（川田文書から）（舟木）・保全病院と富士病院（土屋）・坪井信道と静岡病院（津田進三）・江戸中期の思想家安藤昌益について（堀寛）・保全病院の規則（土屋）・榎日記（芹沢武男）・戸塚静海と種痘（舟木）・静岡県初期の新聞と医史（土屋）・掛川藩の洋学（舟木）適塾門人本間恒哉とは（舟木）・林紀とパリの暮（土屋）

なお秋の医史探訪も県内主要都市はほとんど廻り、それぞれ多くの成果をおさめた。

（土屋重朗）

### 京都医学史研究会

（沿革） 京都には江戸時代から医学史研究の伝統があった。黄川道祐は本邦最初の医学史書といわれる『本朝医考』（寛文三年）

を、また畑維龍は『皇国医林伝』（文政五年）をだした。

明治以降も竹岡友仙は『京都医事衛生誌』（明治廿六年創刊）を通じて医学史啓蒙を行い、その子息の友三は『医家人名辞書』（昭和六年）を刊行した。また京都大学病理学教授藤浪鑑（慶応大学藤浪剛の令兄）は医学史に理解が深く、特に富士川游との友情によって富士川文庫約一万冊が京大へ寄贈された（大正五年）。

昭和初期、佐伯理一郎・川井銀之助らは日本医史学会の初期の同人であった。大戦前後より大矢全節・阿知波五郎らは、大阪の中野操・三木栄らと共に杏林温故会を結成し、戦後は日本医史学会関西支部と改組して上方を中心として盛んに医学史研究を行い、『医譚』を発刊し、更に現在に及んでいることは京都にとっても幸運であった。

戦後京都における医学史的事業の主なものを列記する。昭和二十五年五月、京都府医師会は京都種痘術創始百周年記念祭を行って日野鼎哉の功を顕彰した。昭和三十年四月、第十四回日本医学会総会の際に、京都国立博物館で「医学に関する美術資料展」が開催され、『医学に関する古美術聚英』が刊行された。昭和二十八年四月、山脇東洋二百年祭に当り、京都府医師会館に於て展示会及び講演会を開いた。昭和五十年四月、第十九回日本医学会総会に協賛して、京都府医師会主催の「京都の医学史展」を府立資料館で開催した。

ついで医家先哲顕彰の機運にのって、昭和五十一年三月には山脇東洋観臓記念碑を解剖の場所である京都感化保護院の前庭に建立した。翌五十二年九月、賀川玄悦二百年祭に当り顕彰碑を玉樹